

平成25年度天皇杯受賞者受賞理由概要
園芸部門

全国屈指の高収量トマトと地域活性化を第一に考えた農業経営を実現

○氏名又は名称 有限会社 とまとランドいわき（代表 鯨岡 千春）

○所在地 福島県いわき市

○出品財 経営（トマト他）

○受賞理由

・地域の概要

有限会社とまとランドいわきが所在する福島県いわき市は、県の南東部に位置し、太平洋の黒潮の影響により東北地方にあって年平均気温は約13℃、年間日照時間は2,000時間超を誇る温暖な地域である。

平成23年度の農業産出額は91.9億円で、内訳は米47%、野菜23%、畜産23%。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

平成2年 オランダ式トマト温室の先進地視察を契機に、0.4haのフェンロー型温室を建設し、翌年からトマトの年1作長期どり栽培を開始。

平成15年 国の経営構造対策事業を活用し、2.3haのフェンロー型温室を建設。

平成19年 自社で栽培した農産物（トマト、いちじく等）を利用した加工食品の開発、販売を開始。

平成23年 東日本大震災の被害を短期間で克服し、地域の復興に貢献。

・受賞者の特色

(1)生産管理の高度化

循環型養液システムや日射比例方式を用いた灌水等きめ細かな環境制御を行っており、施設内環境のデータや収量、病害虫の発生状況等を毎作分析するとともに、従業員全員で共有し、次作の改善に繋げている。こうした取組の継続により、生産管理の高度化が図られ、全国屈指の10アール当たり37トンの高収量を実現している。

(2)販路拡大による経営の健全化

東日本大震災以前は市場出荷中心であったが、風評等により価格が低迷したため、インターネット及び直売所販売を強化することにより、安定経営を取り戻した。現在は、直接販売と市場出荷の割合が1：1となっている。直売所には年間約10万人が訪れ、トマトはもとより農産加工品も好評を得ている。

(3)地域貢献

有限会社とまとランドいわきは、自社の直売所で地域内生産者の農産物も販売している。また、40人規模の常時雇用に加え、地域の生産者の農閑期に臨時雇用し、冬期のトマト生産の労働力としている。さらに、地域の子供達の施設見学や収穫体験を年間50団体以上受け入れる等、農業を通じた食育活動にも積極的である。

・普及性と今後の発展方向

代表取締役である鯨岡氏は、福島県の指導農業士として研修生を積極的に受け入れており、若手農業者の育成に尽力している。

今後は、トマトの生産拡大に加え、養液栽培のノウハウを活かすことができるパプリカ、ブルーベリー等の導入による多品目化や、農業をテーマとした集客交流事業を展開すること等により、さらなる発展と地域活性化への貢献が期待される。